

第13回 大阪社会福祉士学会

開催要項

2025年11月15日(土) 13:30～17:00

会場 大阪府社会福祉会館 403号室他

住所 大阪市中央区谷町 7-4-15

主催	(公社)大阪社会福祉士会
後援	大阪府社会福祉協議会・大阪市社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会・大阪医療ソーシャルワーカー協会・大阪介護支援専門員協会・大阪介護福祉士会・大阪精神保健福祉士協会・大阪ソーシャルワーカー協会・日本ソーシャルワーク教育学校連盟近畿ブロック

感染症の状況により、完全又は一部オンライン開催となる可能性があります。その際は
申し込みの皆様にメールでお知らせするとともに、本会ホームページでお知らせします。

大会プログラム

13:00 受付

大阪府社会福祉会館 403号室

13:30 開会あいさつ

(公社)大阪社会福祉士会 会長 吉田 祐一郎

13:40 基調講演 (403号室)

「障害のある人の意思決定支援における課題と社会福祉士が
果たすべき役割」

講師:樽井 康彦氏 龍谷大学社会学部 教授

15:00 分科会

第1分科会 自由研究・実践報告発表

第2分科会 子ども家庭支援部会企画

「性加害を行った児童・若者への対応」

第3分科会 自主企画シンポジウム

「ACPのすゝめ in 南河内」

～多職種連携によるACPの普及啓発とこれからの救急医療のあり方
について考える～

※終了時刻は、最大 17:00(分科会によっては、それまでに終了の場合あり)

参加申し込みについて



- ・参加ご希望の方は、Google フォーム(<https://forms.gle/nGpiBLLy1DG11QYe9>)で
11月11日までにお申し込みください。右のQRコードからも申し込みできます。
- ・学会の抄録集(資料)については、当日の現物のお渡しかデータ提供かお選び頂いております。
データ希望の方は、前日までに登録のメール宛先にお送りいたします。
- ・自由研究発表を希望される方は、同封しております自由研究発表 発表要領をご確認ください。
- ・学会の録音録画は、禁止させていただいております。

会場アクセス

地下鉄谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅

4番出口(谷町筋を南に 280m)

谷町7丁目交差点を西に入る。



基調講演

「障害のある人の意思決定支援における課題と社会福祉士が果たすべき役割」

講師：樽井 康彦氏（龍谷大学社会学部 教授）

【講師プロフィール】

元・知的障害者入所施設 生活支援員。大阪市立大学（現・大阪公立大学）大学院後期博士課程単位取得退学。博士（学術）。行政委員等就任歴として、滋賀県人権施策推進審議会委員、滋賀県精神医療審査会委員など。社会福祉士、精神保健福祉士。

【講演の概要】

厚生労働省が「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」を公表したのが2017年でした。もともとソーシャルワークではクライエントの自己決定の尊重を重要視しており、日本社会福祉士会の倫理綱領にもそれは明示されています（倫理基準I-5、社会福祉士の行動規範I-7）。しかしながら人間の「意思」自体が不可視・不確実なものであることに加え、クライエントの自由と主体性を尊重しつつ、健康や安全、財産等の保護を両立することは、困難を伴う場合もあります。社会福祉士として障害のある人の意思決定をどのように考えていくべきか、これまでの知見や調査の結果等を基に考察していきます。

第1分科会 実践報告会・自由研究発表

402号室

座長 中河内支部 山田 克宏氏

【実践報告】

①「とびだせひみつきち」ができるまで

～地域の大学生とともにつくる居場所プロジェクト～

大阪南支部 永栄 由記子（184496）

②障がい児の通学支援の現状から見た課題とは

—B市での実践からの考察—

三島支部 木下 結（32616）

【自由研究発表】

③自己覚知に関する考察

—正しく自分を知るために—

三島支部 岡本敦之（182850）

④支部運営委員活動をいかに持続させるか

—実践共同体の概念を用いた「魅力」と「課題」の分析を通して—

北河内支部 高井裕二（34030）

北河内支部 鬼木友希（60250）

竹田直樹（非会員）

第2分科会 子ども家庭支援部会企画 505号室

テーマ 「性加害を行った児童・若者への対応」

講師:藤岡淳子氏(一般社団法人もふもふネット、大阪大学名誉教授)

【企画趣旨】

ソーシャルワーカーとして子どもの支援に携わる中で、性的な被害や加害に直面し、対応に戸惑いを感じたことはないでしょうか？

講演を通じて、子どもをめぐる性の問題に対し、私たちが適切な支援を行うための基本的な考え方と対応の方法を学びます。

加害行為を行った子ども・若者とのかかわり方、地域での受け入れ、学校や地域の支援機関ができること等についてもお話しいただきます。

第3分科会 自主企画シンポジウム 403号室

ACPのすゝめ in 南河内

～多職種連携によるACPの普及啓発とこれからの救急医療のあり方について考える～
(シンポジスト)

太田 育夫 氏(近畿大学病院 救命救急センター医師)

北居 順子 氏(訪問看護ステーション Armeria (株)在宅看護L&C代表取締役)

中村 匡志 氏(大阪南消防局 警防部救急課)

廣瀬 英理子氏(社会福祉法人燐愛会 吹田市南吹田地域包括支援センター:三島支部)

赤穂 光郁 氏(四天王寺悲田院:南河内支部)

杉原 圭祐 氏(社会福祉法人聖徳会:南河内支部)

(アドバイザー) 氏家 幹夫 氏(四天王寺悲田院:南河内支部)

(コーディネーター)南 民衛 氏(大阪南消防組合 河内長野消防署警備課:南河内支部)

【企画趣旨】

現代社会は、変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧性(Ambiguity)の4つの要素が絡み合う、先行きが予測困難で急速に変化する「VUCA時代」と呼ばれています。医療・福祉においても上記の要素をはらんだ社会課題を抱えており、これらを解決するためには様々な専門職で構成された多職種連携による情報共有や解決策について、議論し合うことが必要不可欠であると考えます。

近年、南河内地域においては救急搬送要請者の約半数が後期高齢者で占めてられており、これら多くの方がACP(人生会議)を行っておらず、容態急変時の医療やケアに関する事前の意思が示されていないと推測され、その結果、医療機関における治療方針の決定が難航し、本人の意思に反する延命治療につながる可能性があります。これは個人の尊厳を損ねるだけでなく、救急医療体制の疲弊も招くため、南河内支部はこの状況を地域課題として捉え、解決策を検討すべきと結論付けました。

今回、この課題解決の第一歩として、「地域医療圏におけるACPの普及啓発」をテーマに、南河内地域の福祉施設、訪問介護および看護事業者、医療機関、消防機関といった多職種が集う多職種連携シンポジウムを企画しました。

シンポジウムでは、前半に各シンポジストから現場でのACPの現状や今後の展望について発表していただきます。後半では、シンポジストと会場の参加者、さらにはアドバイザーやコーディネーターも交え、意見交換と質疑応答を行います。

参加費

- ・都道府県社会福祉士会会員・後援各団体に属する会員 2,000円
- ・一般(その他:上記以外) 3,000円、学生 500円(就業・非就業問わず)

振込先 郵便振替口座(番号)00930-2-254215

銀行振込 ゆうちょ銀行 〇九九(ゼロキュウキュウ)店 当座預金 0254215

口座名 公益社団法人大阪社会福祉士会

シャ)オオサカシャカイフクシシカイ

お振込みの際、申込者の氏名でお振込みをお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

大阪社会福祉士会 事務局 TEL:06-4304-2772

メールアドレス:res.oacsw@gmail.com